

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア植田		
所在地	愛知県名古屋市中村区植田1-1807		
自己評価作成日	平成22年1月18日	評価結果市町村受理日	平成22年3月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号		
訪問調査日	平成22年2月4日	評価確定日	平成22年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今までと変わらない安らかで心と暮らしの継続。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営母体は岐阜県、愛知県に5箇所運営する医療法人である。ホームの前に母体が運営する医療機関があり、看護師が配置され、24時間対応が可能である。ホームで最期まで看取った経験もあり、職員に対してもターミナルについての勉強会を行い、看取りを行う体制が整っている。職員と管理者の関係は良好で、職員からは「どんな小さな事でも相談にのってくれて心が休まる」との声も聞かれた。職員同士も日々コミュニケーションを取り、良い関係づくがされている。市町村の関係については、これから積極的に情報提供を行っていきたくと考えている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念に加え、当施設におきましては、ゆっくり、おんびりとした生活をベースにその人らしい暮らしを具現化できるように努めています。	法人の理念に加え、ホーム独自の理念を「今までと変わらない安らかで和む暮らし」とし、落ち着いて日々穏やかで安心して自宅にいた時のように生活してもらいたいという思いが込められている。理念はいつでも確認ができるようにリビングに掲示されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この地域においては、地域の関わりが薄く、回覧板すらも回ってこない状況です。そのため、日常的な交流はほぼ無きに等しい。外出時には、声をかけてくださる方や、何をしているところなのか関心を示して下さる方もいらっしや、今後も外出時には、今後も外出時には、こちらからの挨拶、声かけをおこなっていききたい。	日常的な交流はないが、散歩時や近隣のスーパーへ買い物に行った時などは、地域の方と挨拶したりしている。地域の行事は町内の掲示板に掲示されるので、それを見て祭り等に参加している。また、町内に住んでいる職員からも情報を得ている。	ホームの存在を知ってもらうためにも、地域の役員の方との関わりから、日常的な交流へと繋げていくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症=重度精神病といった考えはまだ世の中にはあり、外出時には地域の方々に声かけ、挨拶などで関わり合いの機会を増やしていきたいです。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おこなっています。ご家族、ご利用者の意見、要望を速やかに反映できるよう努めています。	運営推進会議は2カ月に1回開催されており、参加者は家族、管理者、職員となっている。家族全員に呼びかけを行い、2~3名の方が参加されている。会議ではホームの状況や行事の報告がされ、家族から出た意見や要望は速やかに対処されている。	地域の理解と支援を得るための貴重な機会として、町内会の代表や地域住民の方等に参加してもらえよう働きかけていくことを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当市においてのみか分かりませんが、行政側からのアプローチは無きに等しい。こちらからも積極的に情報提供を求める必要あり。	母体法人が市町村へ変更届等の書類提出のため、訪問はしているが、ホーム独自の関わりは行っていない。	ホームの考え方や実情等を伝えていくことで、市町村の理解や支援を得ることができると考えられることから、市町村の担当者との関係づくりに期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正直、困難である。まず人員の問題。認知症の症状により、ほとんど好きに動かれる方と、困難な方の差は大きく、後者の方、特に夜間帯は一部拘束なくしては困	一人で外出される入居者がいるため、安全、防犯上、玄関は施錠している。1階、4階のベランダには花壇があり、自由に出入りすることができる。職員は、否定的な言葉や不安感を持つような話し方を入居者にしないよう気をつけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	おこなっています。スタッフが互いに注意を払いながら、そのようなこと無きように努めています。スタッフが業務に忙殺される事も原因の一つと考えます。ゆっくり動いてもらうように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ、左記につきましては勉強不足の感は否めない。勉強会を設け、知識の浸透を図りたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	おこなっています。おこなったうえで入居へと至っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	おこなっています。2か月に一度の運営推進会議にてご家族、ご利用者の意見をいただいております。	運営推進会議に家族が参加しており、意見を言われる方もある。また、訪問時、管理者等に直接言われることもある。苦情、要望等は申し送りノートに記入され、職員全員に伝達される。ホーム便りに日常のでき事や写真、職員の状況等が掲載され、月1回発行されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	おこなっています。スタッフの意見はすぐ反映できるよう、話しやすい環境作りに努めています。常時、意見、要望が出しやすいよう管理者以下、コミュニケーションに気を付けています。	管理者は職員のどんな小さな要望や希望等にも耳を傾け、助言を行っている。職員からは「心の広い管理者で落ち着ける」との声が聞かれた。休憩時間は1時間確保されており、自由に使うことができ、休憩時間内であれば外出することもできる。2か月に1回程度、職員の食事会が開催されており、関係づくりに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	おこなっています。意見、要望あれば管理者を通して代表者へと話が出せる体制にしております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行っています。勉強会、研修などを通してスキルアップを図っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一般スタッフレベルにおいてまでの交流はまだまだ足りないと考えます。こちらから、交流会の機会を設け、参加を促してゆく必要あり。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	おこなっています。慣れない環境に移るため、ご家族との協力のもと、早期に馴染んでいただけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	おこなっています。できる限りの要望は叶えてゆけるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	おこなっています。まず、その事無しでは今後の生活は困難です。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おこなっています。介護しているという意識でなく、共に生活するという考えのもと、業務に取り組んでいます。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	おこなっています。ただし、家族の意識差はありますが。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	おこなっています。ご家族より要望ない限り、連絡、面会には介入いたしません。	入居前の生活歴を把握し、職員全員に伝達されている。昔からの行きつけの商店や場所などへの外出は、家族の協力のもと行っている。また、入居者は近隣の方が多く、近所の方がホームを訪問されることもある。近隣のスーパーへ買物に行き、挨拶を交わしたり喫茶店へ出かけたりして、馴染みの関係づくりに取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	把握しています。利用者間の橋渡しとなるようにスタッフが間に入り、お互いが話しやすいようにしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	おこなっています。再度ご相談あればできる限り支援できるよう努めています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おこなっています。できる限りは努めていますが、それが本人の意に添っているかは正直分らない部分があります。	生活歴を参考に入居者とコミュニケーションを取り、言動や表情から希望や意向を汲み取り、入居者の意思を尊重した支援をしている。意思表示の困難な方には、声かけを継続し、希望を叶えるよう努めている。気候の良い時期は、屋上で入居者と職員がティータイムを楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	おこなっています。嗜好品も健康面に多大な支障が出ない程度に楽しんでいただいております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おこなっています。そのうえで、ケア方針を立てております。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	おこなっていますが、やはりご家族の協力あってのこと。できるご家族とそうでないご家族との差はあり、関心が薄かったり、現状を理解していなかったり、現状に即した、という意味ではいまひとつ。	介護計画はケアマネジャーと職員全員で相談して仮の計画書を作成し、本人、家族の希望、要望を確認の上、介護計画を完成させている。日々の生活の中で気づいた事は連絡ノートに記入され、月1回のケアカンファレンスで話し合い、意見やアイデアを介護計画に反映させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	おこなっています。職員間にも変化事あればすぐ情報が回るように職員間のコミュニケーションにも気を遣っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	場合により、当法人内の他のサービスの紹介を行っています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	先に挙げたように、地域の関わりは少ない。馴染みの人、出先を作ってゆけるよう外出時の声かけを継続してゆく。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	おこなっています。ご家族の希望を最優先に今まで通りの医療が受けられるようにしています。	母体が医療法人であり、約半分の入居者が法人の医療機関を受診しており、毎週月曜日に往診がある。馴染みのかかりつけ医の受診も家族の協力のもと行っており、連絡や情報を密に取り合い、連携をしていることで安心に繋がっている。看護師は常勤で不在の場合にも24時間、医師と連絡が取れる体制である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	おこなっています。細やかな変化もすぐ報告、対処しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	おこなっています。入院時の様子確認、先方の医療関係者の所見をまとめ、全員に報告します。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	おこなっています。入居時での方針確認、また、重度化の際にも、当方では対応困難な場合もあり、ご理解いただけるよう努めています。	看取りはできる限りの対応を行っていく指針であり、入居前に家族との話し合いを密に行っている。日頃から職員は、ターミナルケアの研修、勉強会、同法人内でのケースを話し合う等、情報の共有を図っている。看護師を配置し、入院した時などは医療機関との連携を図り、その後の対応を検討している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成、急変時の対応についても経験のもと、確認を全員でおこなっています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による訓練を実施、非常時対応を入居者も含め全員でおこなっています。	年1回、避難訓練を昼間の設定で行っているが、職員全員の参加は難しい。隣接の公園が避難場所になっており、2階の入居者は南側の階段を利用し、避難訓練を行っている。2、3階の踊り場を利用し、消火訓練を行っており、消火器は1階に設置されている。備蓄品等は1階の棚に常備している。	地震や夜間時など様々な場面を想定した訓練の実施も期待される。また、いざという時に地域の方などの協力を得られるよう体制づくりに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おこなっています。特に子供に話すような言葉使いには気をつけています。	入社時に、職員は個人情報の守秘義務、プライバシーの確保についての研修を行っている。日々の援助の中での声かけ、接し方など職員間で注意し合い、常に気を配っている。居室へ入室する時は必ずノックをしてから入るようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おこなっています。声かけの継続、希望があればできる限り希望を叶えるよう努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おこなえればよいのですが、スタッフ数の限りもあり、全ての希望を叶えるのは困難。ご家族のご協力をいただきましてカバーいただいております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できています。本人の能力、感性をできる限り活用出来る様に障害はいたしません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>左記につきまちはおこなっております。ご家族からの持ち込みものも、本人の機能に問題ない限り、提供しております。</p>	<p>配食業者を利用し、カロリー計算をしてもらい、食事を提供している。同じ材料でも色々なバリエーションに富んだ食事を楽しんでもらっている。選択できるメニューもあり、入居者に選んでもらっている。季節のメニューも取り入れており、月1～2回は外食し、入居者の希望により、うどん屋、中華料理などを楽しんでいる。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>できています。いつもと違う状況あれば話し合い対策を行っています。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>おこなっています。特に就寝前は確実におこなうように努めています。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>尿、便意の薄い方には声かけ、トイレ促ししております。</p>	<p>排泄パターンを表にまとめ、職員が把握して排泄の誘導を行っている。水分量は1日1リットルを摂取してもらったり、野菜ジュースや牛乳を取り入れ、毎日の排便を促せるように支援している。また、便秘の入居者には往診の際、随時医師に相談し、指示を仰いでいる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>おこなっております。早期での排便促進のため、下剤、また、牛乳、野菜ジュースも人により摂取しております。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>おこなっています。入浴が流れ作業にならないよう、時間をゆっくりとっています。</p>	<p>毎日午後1時～5時位までを目安に入浴してもらっている。希望があれば朝、夜間の入浴の支援も行っている。入浴剤も季節に合わせて使用し、柚子湯、菖蒲湯など季節感を楽しんでもらっている。湯も入浴する都度、足湯を行い、感染症等の恐れのある場合はバスマット、湯を入れ替えたりして衛生面に注意している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>おこなっています。夜間帯は安眠を優先しており、無理なトイレ促しは行いません。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>おこなっています。ドクターの指示の下、服薬変更あった際は状態の変化に注意しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品は身体に多大な影響がない程度であれば、禁止はいたしません。あくまでも、残りの人生をゆっくりできる場所でありたいので。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族への声かけ、ご協力のもと、外出、外泊を行っていただいております。なるべく、ご家族へは時間を作っていただけよう願っています。	季節の良い時は、近所の公園やスーパー、天白川に散歩に出かけている。馴染みの美容院や墓参りの希望があれば、家族の協力のもと支援している。年2回、法人5施設合同で下呂の法人施設に1泊旅行にも出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこなっています。あくまへ管理能力の有無が問題となりますが、問題無き方は特に制限は設けません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族の希望の下、電話の所有、手紙、電話連絡にも特に制限はいたしません。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季のイベント(春秋・正月)等にあつたフロアの飾りつけ、フロアの不快感無きように温度、湿度管理いたしております。	リビングの正面にエレベーターがあり、各フロアから自由に出入りして、居室に移動できる。リビングの端にはソファーに囲まれて大きなテレビがあり、横になりたい入居者のために簡易ベッドが置いてある。所々に緑の観葉植物が置かれ、4階のベランダにはパンジーなどの植物になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	考慮しております。気の合う人同士が隣合わせになり、コミュニケーションが活発となるようにしております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お気に入りの物品の持ち込みには特に制限はいたしません。	家電製品も持ち込み可能で、冷蔵庫などを使用している方もいる。希望する方は畳での就寝も可能である。夜間用にポータブルトイレを居室に設置している方もいる。遺影を置いている方もいて、希望があれば仏壇も持ち込み可能である。居室には趣味の作品や家族の写真などが飾られていて、家庭にいる雰囲気大切にしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造を基本に、自分で動ける方は出来る限り自分にて。リスクはありますが、動ける限り動いていただいております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	
事業所名	
所在地	
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今までと変わらない安らかで心む暮らしの継続。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念に加え、当施設におきましては、ゆっくり、おんびりとした生活をベースにその人らしい暮らしを具現化できるように努めています。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この地域においては、地域の関わりが薄く、回覧板すらも回ってこない状況です。そのため、日常的な交流はほぼ無きに等しい。外出時には、声をかけてくださる方や、何をしているところなのか関心を示して下さる方もいらっしゃる、今後も外出時には、今後も外出時には、こちらからの挨拶、声かけをおこなっていききたい。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症=重度精神病といった考えはまだ世の中にはあり、外出時には地域の方々へ声かけ、挨拶などで関わり合いの機会を増やしていきたいです。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	おこなっています。ご家族、ご利用者の意見、要望を速やかに反映できるよう努めています。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当市においてのみか分かりませんが、行政側からのアプローチは無きに等しい。こちらからも積極的に情報提供を求める必要あり。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正直、困難である。まず人員の問題。認知症の症状により、ほとんど好きに動かされる方と、困難な方の差は大きく、後者の方、特に夜間帯は一部拘束なくしては困		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	おこなっています。スタッフが互いに注意を払いながら、そのようなこと無きように努めています。スタッフが業務に忙殺される事も原因の一つと考えます。ゆっくり動いてもらうように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ、左記につきましては勉強不足の感は否めない。勉強会を設け、知識の浸透を図りたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	おこなっています。おこなったうえで入居へと至っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	おこなっています。2か月に一度の運営推進会議にてご家族、ご利用者の意見をいただいております。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	おこなっています。スタッフの意見はすぐ反映できるよう、話しやすい環境作りに努めています。常時、意見、要望が出しやすいよう管理者以下、コミュニケーションに気を付けています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	おこなっています。意見、要望あれば管理者を通して代表者へと話が出せる体制にしております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行っています。勉強会、研修などを通してスキルアップを図っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一般スタッフレベルにおいてまでの交流はまだまだ足りないと考えます。こちらから、交流会の機会を設け、参加を促してゆく必要あり。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	おこなっています。慣れない環境に移るため、ご家族との協力のもと、早期に馴染んでいただけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	おこなっています。できる限りの要望は叶えてゆけるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	おこなっています。まず、その事無しでは今後の生活は困難です。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おこなっています。介護しているという意識でなく、共に生活するという考えのもと、業務に取り組んでいます。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	おこなっています。ただし、家族の意識差はあります。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	おこなっています。ご家族より要望ない限り、連絡、面会には介入いたしません。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	把握しています。利用者間の橋渡しとなるようにスタッフが間に入り、お互いが話しやすいようにしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	おこなっています。再度ご相談あればできる限り支援できるよう努めています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おこなっています。できる限りは努めていますが、それが本人の意に添っているかは正直分らない部分があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	おこなっています。嗜好品も健康面に多大な支障が出ない程度に楽しんでいただいております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おこなっています。そのうえで、ケア方針を立てております。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	おこなっていますが、やはりご家族の協力あってのこと。できるご家族とそうでないご家族との差はあり、関心が薄かったり、現状を理解していなかったり、現状に即した、という意味ではいまひとつ。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	おこなっています。職員間にも変化事あればすぐ情報が回るように職員間のコミュニケーションにも気を遣っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	場合により、当法人内の他のサービスの紹介を行っています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	先に挙げたように、地域の関わりは少ない。馴染みの人、出先を作ってゆけるよう外出時の声かけを継続してゆく。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	おこなっています。ご家族の希望を最優先に今まで通りの医療が受けられるようにしています。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	おこなっています。細やかな変化もすぐ報告、対処しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	おこなっています。入院時の様子確認、先方の医療関係者の所見をまとめ、全員に報告します。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	おこなっています。入居時での方針確認、また、重度化の際にも、当方では対応困難な場合もあり、ご理解いただけるよう努めています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成、急変時の対応についても経験のもと、確認を全員でおこなっています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による訓練を実施、非常時対応を入居者も含め全員でおこなっています。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おこなっています。特に子供に話すような言葉使いには気をつけています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おこなっています。声かけの継続、希望があればできる限り希望を叶えるよう努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おこなえればよいのですが、スタッフ数の限りもあり、全ての希望を叶えるのは困難。ご家族のご協力をいただきましてカバーいただいております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できています。本人の能力、感性をできる限り活用出来る様に障害はいたしません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>左記につきましてはおこなっております。ご家族からの持ち込みものも、本人の機能に問題ない限り、提供しております。</p>		
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>できています。いつもと違う状況あれば話し合い対策を行っています。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>おこなっています。特に就寝前は確実におこなうように努めています。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>尿、便意の薄い方には声かけ、トイレ促ししております。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>おこなっております。早期での排便促進のため、下剤、また、牛乳、野菜ジュースも人により摂取しております。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>おこなっています。入浴が流れ作業にならないよう、時間をゆっくりとっています。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>おこなっています。夜間帯は安眠を優先しており、無理なトイレ促しは行いません。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>おこなっています。ドクターの指示の下、服薬変更あった際は状態の変化に注意しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品は身体に多大な影響がない程度であれば、禁止はいたしません。あくまでも、残りの人生をゆっくりできる場所でありたいので。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族への声かけ、ご協力のもと、外出、外泊を行っていただいております。なるべく、ご家族へは時間を作っていただけるようお願いしています。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこなっています。あくまへ管理能力の有無が問題となりますが、問題無き方は特に制限は設けません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人、ご家族の希望の下、電話の所有、手紙、電話連絡にも特に制限はいたしません。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季のイベント(春秋・正月)等にあつたフロアの飾りつけ、フロアの不快感無きように温度、湿度管理いたしております。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	考慮しております。気の合う人同士が隣合わせになり、コミュニケーションが活発となるようにしております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お気に入りの物品の持ち込みには特に制限はいたしません。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造を基本に、自分で動ける方は出来る限り自分にて。リスクはありますが、動ける限り動いていただいております。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム ファミリア植田

目標達成計画

作成日: 平成 22年 3月 23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		市町村との連携がほぼ無く、運営に役立つ情報が入ってこない。	定期的な行政へのアプローチと情報収集を行う。	定期的に役所へ足を運ぶように努め、地域の介護ニーズ、勉強会、セミナー等のスキルアップにつながる情報を集める。	ヶ月
2		地域との関わりがなく、交流も少ない。その為、地域における介護ニーズの把握も欠けてしまっている。	地域行事の把握と参加。 当施設の見学、行事の見学会等、検討してみる必要あり。	地域の理解と支援を得るため、運営推進会議等、町内会の代表や地域住民の方に参加してもらえるよう働きかけていきたい。	ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。